

なんでもインフォ 2016.2



発 行　株式会社 昭和土木設計　岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23
Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～「コンパクト＋ネットワーク」について～

はじめに

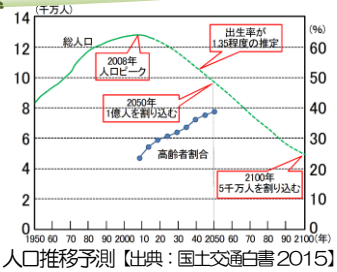
平成 26 年 7 月に国土交通省から公表された「国土のグランドデザイン 2050」は、急速に進む人口減少や巨大災害の切迫などの我が国が直面する課題を見据え、今後の国土づくりの理念や考え方を示すものです。これを受け、昨年 8 月に、この先概ね 10 年間の国土づくりの方向性として「国土形成計画」が定められました。

これらの計画では、地域活性化と地域間の連携による新たな価値の創出を目指す「対流促進型国土」の形成を図ることとし、そのための国土構造として「コンパクト＋ネットワーク」の形成を推進することとしています。

今回のなんでもインフォは、「コンパクト＋ネットワーク」について、最新の国土交通白書の内容などから紐解いてみます。

背景にある現状と課題

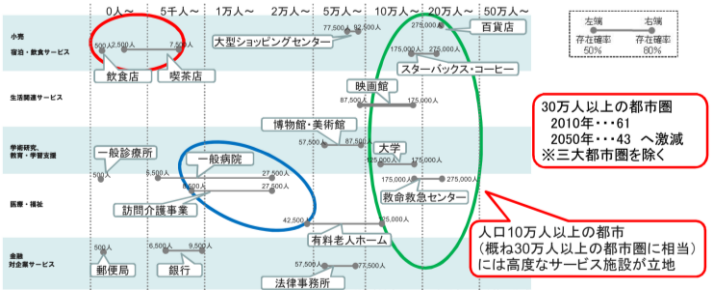
我が国の人口は、2008 年に 1 億2,808 万人のピークに達した以降は減少傾向にあります。また、高齢者(65 歳以上)人口は、2013 年の段階で約 25%ですが、2050 年には 40%弱に届き、国民の 5 人に 2 人が高齢者である時代を迎えるとされています。



人口推移予測【出典：国土交通白書 2015】

このような人口減少や高齢化の進行は、私たちの生活に具体的な影響を及ぼします。特に地方部では、財政難が一層深刻化し、必要な都市機能を維持することが困難になるとともに、拡散した市街地を抱えたまま人口が減少することになれば、市街地の低密度化が増々進行する恐れがあります。

下図は、生活サービス施設が立地し得る自治体等の人口規模を示し、例えば、施設の立地確率が 50%となる人口規模は、大型ショッピングセンターで 7.8 万人、救急救命センターで 17.5 万人、有料老人ホームで 4.3 万人などであり、人口が減少するとこうした施設の維持・存続が困難になると考えられます。



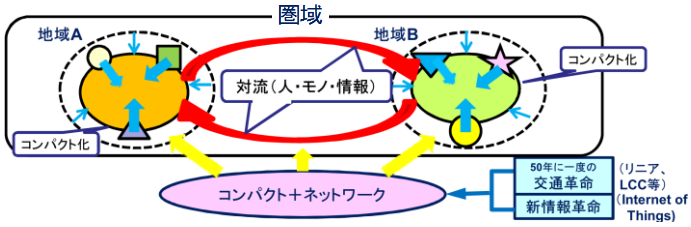
サービス施設の立地確率が 50%や 80%となる人口規模

【出典：国土のグランドデザイン 2050 概要資料；国交省 HP より】

「コンパクト＋ネットワーク」の概念

「コンパクト」は「まとまり」を意味し、「ネットワーク」は地域間の「つながり」を意味しています。

すなわち、今後の人口減少、高齢化が進む社会では、行政や医療・介護、福祉、商業、金融、エネルギー供給などの各種サービスが効率的に提供できるよう、一定の地域にこれらの機能を集約することで「まとまり」をつくり、交通や情報ネットワークによって「まとまり」同士を結ぶ「つながり」をつくることが重要であり、そのような都市構造・国土構造が「コンパクト＋ネットワーク」の考え方です。



「コンパクト＋ネットワーク」概念図

【出典：国土のグランドデザイン 2050 概要資料；国交省 HP より】

「コンパクト＋ネットワーク」の効果

コンパクト化によって生活サービスの効率化が図れますが、それだけでは地域のマーケットが縮小して人口規模を確保できない恐れがあります。そのため、ネットワーク化により圏域での人口を確保することが不可欠になります。

「コンパクト＋ネットワーク」により、人・モノ・情報の高密度な交流と、これによって新たな価値、新たな賑わいが創出され、地域の歴史や文化の継承とさらなる発展が期待されます。

すなわち、「コンパクト＋ネットワーク」は「新たな集積」を形成し、国全体の「生産性」を高める目指すべき国土構造として位置づけられています。

「コンパクト＋ネットワーク」の期待効果

①拠点地域の人口密度が維持されることによる生活サービス施設の持続性向上
②公共サービスの効率化などによる財政支出の削減
③CO2 排出量の削減などによる環境面での効果
④小売業やサービス産業を中心とした売上の向上効果
⑤上記効果の相乗効果による地域経済循環を改善する効果

「コンパクト＋ネットワーク」取組み事例

国土交通白書 2015 には、お隣の青森県八戸市での取組み事例が取り上げられています。市内中心部の公共交通網である路線バスについて、これまでは複数の事業者が個別に運行時刻等を設定していたために利便性が悪かったのですが、共同で 10 分置き等間隔の運行を実施した結果、運行の効率化により便数の削減が図れた一方で、利便性が向上して利用者が増加し、収益が赤字から黒字へ転換した。という事例であり、路線バス「ネットワーク」の利便性を高めることで、中心市街地への人の移動の活性化が図れた事例です。

本県に於いては、現在急ピッチで進んでいる復興道路や復興支援道路の整備が「ネットワーク」の強化と言えます。被災地の復興街づくりは「コンパクト」を重視して行い、復興道路という「ネットワーク」で結ぶことで新たな人やモノの流れを創出することは、まさに、今我が国が目指している「コンパクト＋ネットワーク」による国土づくりの「実践モデル」と言えるのではないでしょうか。以上



復興道路・復興支援道路

【出典：岩手河川国道事務所 HP より】

（※作成にあたり、国土交通省「国土政策 Web ページ」、「国土交通白書 2015」及び「岩手河川国道事務所 Web ページ」を参考にさせて頂きました。）

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計の他、3D 空間計測・3D 設計・ICT 等の業務を行っております。

”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください。

配布者

作成者：コンサルタント事業部